



第2回 OECD 東北スクール サマースクール in いわき

～2014年9月「東北・草の根大使」として パリで東北をアピールしよう！～

2012年7月31-8月4日 福島県いわき海浜自然の家

テーマ：チーム＜環＞で団結！地域チーム活動の充実！

「みんなで決める力」「切磋琢磨、つつこむ力」「地域を考える力」「あきらめない粘り強さ」

日程（7月2日時点での案、変更が予想されますので、ご確認ください。）

■ 7月31日（火）

- 9:00 オープニングセレモニー（運営事務局、OECD）
- 10:00- スプリングスクールをふり返ろう
- 11:00- 2014年までのロードマップとサマースクールの目的
- 13:30- ●生徒対象：「春から今までをふり返る」（福島大学・三浦浩喜氏）
●大人対象：「未来をつくる東北復興」（文部科学省、OECD 教育局長バーバラ氏）
- 14:30- 東北にとって祭とは？（Gad Weil 氏：メディアプロデューサー）

■ 8月1日（水）

- 9:00- 地域スクールの活動発表（各チーム）
「行動力・実行力・発想力」（真田秀信氏：ユニクロ・フランス社長）

■ 8月2日（木）

- 9:00- ●生徒対象：「学びだって戦略が必要」（未定）
●大人対象：「21世紀型のカリキュラム」（文部科学省＋佐藤学氏：元東京大学教授）
- 10:00- 経験者にインタビュー（未定）
- 13:30- みんなで「決める力！」（Gad Weil 氏：メディアプロデューサー）
- 15:30- みんなで決めたシナリオを各チームのシナリオに落とそう！

■ 8月3日（金）

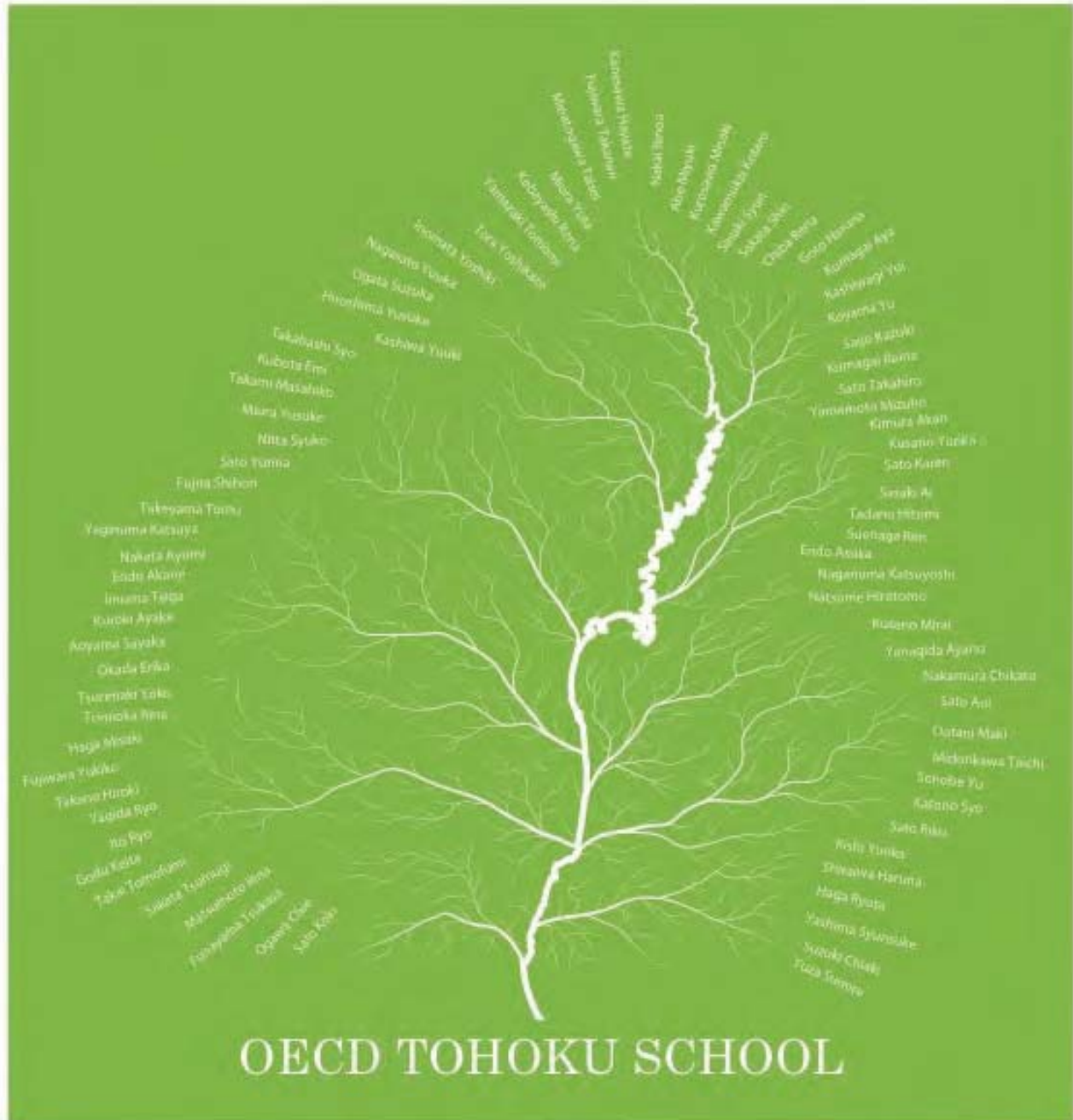
- 9:00- チームでアイデアをまとめよう（Gad Weil 氏：メディアプロデューサー、他）
- 13:20- 東北にとって祭とは（赤坂憲雄氏：福島県立博物館館長）
- 15:00- チーム＜環＞の未来を、夢をアートにしよう！（磯崎道佳氏：造形作家）

■ 8月4日（土）

- 9:00- 次回スプリングスクールに向けて課題の確認（運営事務局）
- 10:00- エンディングセレモニー（運営事務局、OECD）

文部科学省教育復興支援事業

OECD 東北スクール



2011 年 3 月 11 日、東北地方東の海岸線上で、約 2 万人もの尊い命が失われた

しかし、その海岸線の上で何倍もの人々の命も救われた

生と死の境界線

絶望の境界線から 希望の境界線へ

OECD東北スクール



2014年9月 フランス・パリで、
東北の魅力をアピールするためのイベントを自ら企画・実行。



開催場所はOECDパリ本部予定。但し、参加者の夢・アイデア・
発想・予算・交渉次第で、パリの街中でも可能。

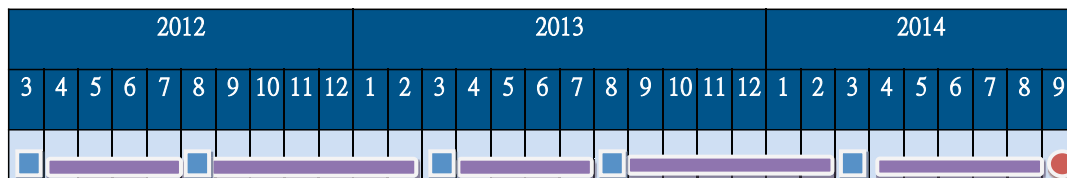


フランスへの渡航予定人数は約100名。
但し、参加者の希望・企画・実行力により 増減あり。



内容（東北の何を どうやってアピールするか）は
参加者の企画により決定！

2014年までの大まかな流れ



2012-14年まで、5回の一週間集中ワークショップ(熟議や体験学習)

- ❖ 参加者全員での全体会。各回の開催地とOECDで共同開催。

2012-14年まで、5回のウィークエンド・スクール（週末の活動、又は、「総合学習」「特別活動」等の教育課程内や放課後等の課外活動）

- ❖ 各集中スクールまでの間は 各地域のチーム毎に、基本として、引率者が開催。
- ❖ 各チームの計画案を実施・支援のため、周りの友人や社会人も参加歓迎！
- ❖ 会合の目安は月2回。但し、参加者の状況に応じ、臨機応変に対応。
- ❖ 新しい価値観を生むため、東北域外(国内外)からメンター(お兄さん・お姉さん)と交流、進捗状況を話し合ったり、良いアイデアを出し合ったり。

2014年 パリで東北をアピールするイベント

（１）スプリングスクールのフレームワーク

3月26日から30日にかけて、福島県いわき海浜自然の家において、第1回OECD東北スクール・スプリングスクール in いわきが開催された。

集まってきた生徒達は80名で、岩手県の釜石市、大槌町、宮城県の気仙沼市、南三陸町、女川町、福島



県のいわき市、伊達市、相馬市、大熊町などの中学生と高校生達だった。いずれも自分たちの地域の復興を真剣に考えている若者達であり、かつ、たんに地域復興に留まらず、国際的な視野を得て、これまでとは異なる地域のあり方を模索しようとする雰囲気も当初から伝わってきた。



他にエンパワーメント・パートナーとして東京大学附属高校、奈良女子大学附属高校の生徒達、そして引率教師であるローカルリーダー、ファシリテーターも加わり、参加者自らがその都度軌道修正を行い、全体が多層的に展開することになる。

（２）過去から現在、そして未来へ

スプリングスクールの初日、オープニングセレモニーの冒頭にOECD教育局長バーバラ・イッシンガー（Barbara Ischinger）の「Mission Possible : 2014年9月にパリで東北の魅力を伝えるイベントを開催せよ！」という、プロジェクト全体のゴールがユーモラスに示された。続いて、グリアOECD事務総長、マセ駐日フランス大使、吉川OECD日本政府代表部大使らからのビデオメッセージも披露された。

ワークショップは、池上彰氏（フリージャーナリスト）による自己紹介から開始された。参加者80名のすべてが全体の前で自己紹介を行い、生徒達はその都度、池上氏から



コミュニケーションスキルのアドバイスを受けていた。



続いて、三谷宏治（金沢工業大学）氏による「発想力・探究力」のワークショップである。三谷氏は企業戦略の基礎には発想の転換が必要不可欠とし、錯視などを例に挙げ、われわれの日常がいかに関見にとらわれているかを痛感させてくれるものであった。参加した生徒達の中でもっとも印象

に残ったワークショップとして多数指摘されており、池上氏のワークショップと合わせて、全体のスタートとして極めて有意義なものであった。「動きながら考えよ」が印象に強く残る。

続いて、三浦浩喜（福島大学）による、震災前後からこれまでの1年間をふり返りそれを1本の線で表現するワークショップが行われた。短い時間であったが、震災直後の絶望的な状況からそれぞれの立ち直りの軌跡が描かれ、「このときはこうだった」



といった具合にお互いに情報交換を行い、共同的に想起されていたことが極めて印象的であった。これはその後の混合チームでの自己紹介に使われた。

過去をふり返った後に、今度は「過去から今を生きる」とした池上氏のワークショップはさらに展開する。「復興と復旧の違い」を考え、東京大空襲時と東日本大震災時の津波被





害の写真の酷似している様子などが示され、復興の可能性が示された。

スプリングスクールは、生徒達の生活自治を枠組みとして持ち、リーダーグループが学習と生活を自己管理し、かつ、生徒達の意思を集約し表明するオートノミーを重視した。夕方生徒達は係ごとにミーティングを行い、一日の活動を総括し、学んだ点や明日への課題を指摘し合った。また、生徒達は出身地域ごとの「ホームチーム」とそれをミックスした「混合チーム」の二種類のチームが組織され、ワークショップごとにシフトした。また夕方のこの時間は、引率教師（ローカルリーダー）同士の情報交換や今後の進め方について

議論をする時間として重要な時間であった。

スプリングスクールの二日目は、「東北けんみんショー！」と題した池上彰氏によるコラージュによるお国自慢のポスター制作のワークショップが繰り広げられた。わずかな時間でそれぞれの地域のアピールポイントがコラージュで示され、改めて生徒達の地域への思いが強く感じられるものとなった。



午後は Elmund Lim 氏（シンガポール・小学校校長）と池上氏による「未来の自分、未来の東北、未来の日本は？」と題した自由な材料を用いて未来を表現するワークショップ



と、磯崎道佳氏（造形作家）の自分のシルエットに未来の自分の姿を表現する活動が展開された。磯崎氏のワークショップは次回に個々の作品がつながり、巨大なドームとなる予定である。ここまで「過去—現在—未来」の流れを構成し、生徒達を未来へ

と指向させた。

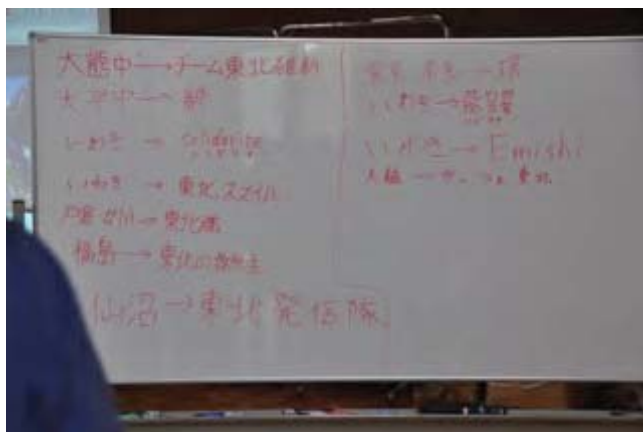
(3) チーム「環」の誕生——変化の時



3日目は、このプロジェクトの立役者とも言える Gad Weil 氏（国際的イベントプロデューサー）をはじめとしたチームによる Google Earth などを駆使した目的地パリの紹介と、活動チームの名付けと役割分担のワークショップである。ホームチームごとにグループ名を決め、それを一つの輪

となってチーム全体の名前を議論させ、その結果名付けられたチーム名は「環」であった。

被災地同士が、あるいは非被災地とも協力し合いながら一丸となって復興をめざすという思いが託された名前であり、全員で肩を組み「wa～」と叫んだその瞬間は極めて感動的なものであった。続く「シナリオ作成」「スポンサー探し」「コミュニケーション機能」の役割分担と合わせて、80名の参



加者が集団として質的に大きく変化した時間であった。同日夕方には榎木泰西氏（テレビプロデューサー）によるセルフドキュメンタリーのワークショップと、生徒自身発案によ



るパーティーが催され、大いに盛り上がった。

（４）子ども・若者の視点からの復興とそれを支える教育づくり

４ 日目は内田和成氏（早稲田大学ビジネススクール）のマーケティングのワーク



ショップでは、東北をアピールする視点とそれをビジネスとして受け入れてもらうしくみを考えさせられることになる。これは午後からのホームチームによるプレゼンテーションづくりへと発展し、最終日である翌日午前の発表へとつながっていく。

最終日は朝から地域の方々や、鈴木寛氏（前文科副大臣）、丸山邦治氏（丸山海苔店社長）らをお迎えしての発表会となる。12

のチームが 2014 年 9 月にパリで行うイベントのアイディアを、パフォーマンスや PowerPoint など駆使して発表する。「騎馬武者になってシャンゼリゼ大通りをパレード」「エッフェル塔の下で巨大ドミノ」「各地で東北博覧会」など、若者らしい斬新なアイディアが披露され、パネリストからも賞賛の声と改善へのヒントなどが示された。

3 年間かけて生徒達を復興の担い手として育てるというプロジェクトの中、このスプリングスクールで確認されたのは、大人社会の地域復興に収れんされることのない、子ども・若者達独自の復興への課題である。この復興期を子どもから大人へと変化する多感な時期

を過ごさざるを得ないということ、それは一方で彼らに苦勞を強いることでもあるが、一方では復興のプロセスと自らの成長を同期させ、これまでにない新たな可能性を十分期待





させるものでもある。OECD東北スクールはスタートしたばかりであるが、この新たな可能性を現実とするための新たな教育の枠組みを提起するものでなければならぬだろう。



生徒の呼びかけにより、参加者全員が一つの「環」になる



原動力1：OECD東北スクール 参加者

参加者自身が、OECD東北スクールの「主役・シナリオライター・演出家」。

現在、岩手、宮城、福島の被災3県の約80名の参加者です。与えられた「ミッション
ポッシブル＝2014年に東北を世界にアピールするイベントを企画・実行せよ」をチーム全体として取り組みます。中身は、集まる参加者のアイデア・自主性・参画度によって決められます。

3県の異なる背景を超え、以下の参加者が一体となりました。参加者全員のチームを「WA（環）」と命名しました。

県名	参加地域・グループ (県別、あいうえお順)	学校	参加人数
岩手	大槌町	大槌町立大槌中学校・吉里吉里中学校	9
	釜石市	釜石市立大平中学校	8
宮城	女川町	女川向学館	3
	気仙沼市	気仙沼市の8つの中学校	8
	南三陸町	南三陸町立戸倉中学校	6
福島	いわき生徒会サミット	いわき市の24の中学校	29
	大熊町	大熊町立大熊中学校	9
	相馬市	相馬高校	2
	伊達市	伊達市立梁川中学校、霊山中学校	7
合計			80

参加生徒数 2012年3月時点

参加者は、12のチームに分かれ、それぞれの地域の特色を生かしたイベントのシナリオを生み出しました。最終日には、パネリストの先生からフィードバックを受けました。
(素案) 2012年3月30日時点

チーム名 (あいうえお順)	参加地域・グループ	テーマ	イベント内容の詳細・シナリオ
大平中学校チーム	釜石市	大平ソーランの披露	ソーラン節（伊藤多喜雄さん）にアレンジ。フランス語でスピーチ
女川向学館チーム	女川町	2017年の女川	環境保全イベント、さんま収穫祭、がれきのアートなどの有効利用
相馬チーム	相馬市	相馬野馬追	騎馬武者10人、1000人規模のパレード、ユニクロとのコラボTシャツ
Solidarité	いわき生徒会サミット	津波に耐えた桜をOECDの中庭へ植樹	OECD本部の庭に津波に耐えた東北6県の桜の木を、東北の形に植樹
Takoyaki	いわき生徒会サミット	東北の夢	バスチーユ広場で七夕祭り、屋台、夜は行灯
伊達合同チーム	伊達市	原発被害に負けない伊達市の人々の姿をアピール	歴史調査、農家のインタビュー、市役所訪問、伊達市ホームワイン
チーム大槌	大槌町	SHIN（新・真）東北博覧会「再生」	食（名産品を使った料理）、交流（Skypeで東北とフランスをつなぐ）、方言「がつつあ」を世界に広げる、元気（笑顔の写真）等
チーム気仙沼	気仙沼市	自然を味わうIN気仙沼	体験型ツアーの企画（植樹、養殖、水揚げ等）
東北維新	大熊町	東北復興大作戦	女子よさこい、男子組み体操男塾、ハートのキーホルダー、なみえ焼きそば
東北スマイル	いわき生徒会サミット	Fete de 東北	エッフェル塔下の巨大ドミノ、七夕の短冊による交流、屋台、漫画展示等
南三陸町 戸倉中チーム	南三陸町	元気、力強さ、魅力を伝えよう	しし踊り、漁場（海産物、たこ等）
料理一緒に作り隊	いわき生徒会サミット	東北食文化レクチャー計画：郷土料理教室	東北産の食材を使った郷土料理を一緒に作る